

に赤い提灯を並べ掛けたる茶店。之が背景には杉の森と遠山で誠によい氣持。喜んで畫いて居ると。日光に名物なる夕立俄に來り。今畫いて居る向ふの杉の木へピシーリと雷が落ちたので吃驚仰天逃げ歸つた事もあり。中禪寺の方へ探景に行つた時。華嚴の瀧は此頃のやうに取締嚴重ではなかつたが。此瀧の前へ立て見て居ると。自分も瀧と共に深い底の方へ吸込まれて行くやうに思はれ怖氣がたつたので。寫生などは止めにして歸つたこともあり。東照宮の事務所の役人に琵琶の熱心家があつて度々聞かせて貰ひましたが。此の人弾く時に。口の内でスッチャン。トチャチャン。スチャチャラ。トツチャンと調子を取るの何となく可笑しく思はれたこともあり。汽車の中で巡查にホテルの客引と間違へられた事もあつて。今に種々笑話の種を残した事でありました。

名 家 談 片

大理石は伊太利が一番よいのだが、日本では常陸の眞弓山から出るのは彫刻に使へる、價は一切(一尺立方)四五圓からあつて、大きくなる程價の割合が増してくる、質は細かいのも粗いのもある、透明に過ぎたのはイケない。

原型が出来れば、アトは石に星をうつて段々缺いてゆくのだから、美術家自から手を下さない、仕上げに注意すればよいのだ。丁度材木のやうに、木口と板目とあつて、同じ石も方向によつ

て丈夫な處と脆い處がある。

大理石の彫刻物は、二切位ひ石を使ふ大きさのものなら、原價七八十圓はかゝる、同形のもが澤山出来るなら従つて安くなる。彫刻物の運搬には、丈夫な箱の中に木で仕切りをこしらへて、上下左右に少しも動かぬやうにさへすれば、遠方でも取扱が粗末でも破損するやうな事はない。

繪かきは質素な生活に慣れておなくつてはいけぬ。近頃繪かきの生活が高くなつたので、餘計働かなくつてはならない、それがために自分の得意な製作が出来ない、繪も高く賣らなくつてはならない、一たいこの繪の價段はちと高いやうだ。

繪かきが役人になりたがるのは不量見だ、日本では役人といふと何となくエラさうに思ふから困る、役人になると段々繪がかげなくなるやうだ。

世間にはクセのある繪かきが多いが、一般の賞賛は得られない。併好く奴は馬鹿に好く。いづれクセのある繪を好く奴はクセのある人間だ。

この頃流行る半出來のやうな繪だれ、印象風とでもいふのかな、アレはまア日本の鳥羽繪のやうなものだれ、面白いには相違ない、たゞ面白いといふ丈けだ、四ツか五ツの子供の描いたものも面白い事があるかられ、あれで濟むなら木炭を持つてアクセクするには及ばないネ。